カトリック幟町教会報
平和の鐘
2019年
4月
No.496

私たちは神の民
その牧場の群れ

援助修道会　橋本晶子

冷たい空気の中に微かに漂う春の香り。雪どけ間近の3月、久々に北海道に帰省し四旬節を迎えました。北海道の冬は、木々も草花もすべてが氷と雪に閉ざされます。そのいのちが再び大地を彩る頃、復活祭は巡ってくるのです。私は子どもの頃から、この季節の移り変わりが好きでした。桜もチューリップも一斉に花開く北海道の春は、まさに主の復活を讃えているように思えたのです。

しかし、この喜びの感覚を失った時期があります。それは 2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災の時でした。当時私は福島に在住しており、震災と原発事故に見舞われ、草木が芽吹いても、桜が咲いても目に映らず、色を失った世界だけを見つめる日々でした。ところがそのような私をよそに、自然界は淡々と生の営みを続けていたのです。ある時、瓦礫の中でたくましく咲く一輪の花に出会いました。その花はいのちへの希望を気づかせ、私に再び色の感覚を取り戻してくれたのです。

さて「春」という漢字は、草が日を受けて群がる様子を示しているそうです。「群がる」という言葉は少々不気味で、何か一つのものに寄り集まる姿や貪欲な思いと結びつきます。しかし、実はそれが本当の春の姿なのかもしれません。みじめな姿をさらしながら冬を越え一斉に芽吹きだす。そこには「生」への執念さえ感じます。

今年も私たちは四旬節の恵みをいただきながら、自らの貪欲さや弱さを主の前に捧げてきました。そしてその苦しみや痛みを、イエスが十字架の死によって受けとめておられることに触れ、イエスと共に復活の希望に与る望みを強めています。私たちは、青葉若葉のいのちが芽吹く季節の中で主を讃えましょう。イエスという牧者に群れる羊として、永遠のいのちに結ばれている喜びを感じながら。

ご復活おめでとうございます！

春は新たな希望に向かって旅立つ姿を、応援する季節です。
教会学校、青年部からも卒業により、新たな出発を切る若者がいます。
ぜひ、応援してください。

ＡＳさん

私の高校３年間は出会いがたくさんありました。一番大きな出会いはやはり教会です。高校に入ってから本格的に行くようになり、多くの人達に出会い、多くの経験をし、そして洗礼を受けられたことは私にとって宝物です。これからは少しでも恩返しができればと思っています。

また、高校ではたくさんの友達はできませんでしたが、ずっと大切にしたいと思える人に出会えました。

高校を卒業し、いよいよ残り少なくなってきた学生生活、夢に向かって確実に歩んで行きたいです。

ＳＨさん

私の高校生活を振り返り、漢字１文字で表すとすると「濃」です。私の高校生活ではたくさんの個性豊かな人達と出会い、たくさんの貴重な経験をさせてもらいました。学校では毎日のように笑ったり、時には真剣に話したりとても充実していたと思います。教会では中ブロのスタッフとして会長をやらせていただき、他では体験出来ないようなこともすることが出来ました。このような充実した生活が送れたのも、支えたくれた家族、友達、先生、教会の皆さんのおかげだと思います。本当にありがとうございます。

これからは大学という次のステップへ進みます。大学ではこれまで以上に色んなことを体験して感性を磨き、社会に出て恥じないような人になれるように精進していきたいと思います。

最後になりましたが、今まで応援してくれた方々本当にありがとうございました。

これからも未熟な私をどうぞよろしくお願いします。

ＣＴさん

私は今年の３月で中学校を卒業します。

私は、小学校と中学校続けて生徒会に入っていました。そこでは、人をまとめたり、自分で企画することを通して責任を持つ事の大変さを学びました。何度も諦めようと思いましたが、結果的にそれら全ては、私が今まで成長して来た糧になっていると思います。

義務教育が終わった今、私は一人の社会人として歩み出そうとしています。不安も沢山ありますが、何時も神様の事を忘れず、神様の光の中を歩んで行けるようにお祈りいたします。

ＳＮさん

４年間お世話になりました。

いつも、私たち青年のためにお祈りくださりありがとうございます。

聖堂の大きさ、多くの方との交わり、行事の内容と、福山教会から来た私にとっては、いつも新しいことの連続でした。

大学が教会の隣だったからか、毎日のように教会に来ていました。事あるたびに、温かく共同体に迎えてくださり、また見守ってくださったことに感謝いたします。

私たち青年にとって、教会は大切な居場所です。若いパワーが弾けて時にはご迷惑をお掛けしたこともありました。青年はこれからの教会を担っていく大切な存在ですので、どうぞこれからも私たちを見守り、支えてくださいますようお願いいたします。

私は、４月から東京教区の幼稚園教諭として働くことになりました。幟町教会を離れることはとても寂しいのですが…

「平和は子ども達から」という言葉を信じて、ここで学んだ感じたことを子ども達に伝えられますように…

NMさん

"シスターいいかも"

その思いが静かに浮かんでから、２年余り。この度、聖パウロ女子修道会に入会するため、幟町教会を離れることとなりました。

春から、東京の修道院での生活が始まります。お祈りしてるよ！と沢山の方に声をかけていただき、温かい気持ちにさせられています。ありがとうございます。

みんな神様に愛されて生まれてきた。教会生活で教えてもらった、一番大きなことです。この素晴らしい知らせを、多くの人に伝えられる人になりたいです。

実際何が出来るかはまだ分かりませんが、わたしを待ち受ける面白い人生めがけて、行ってきます！

洗礼志願式

3 月 10 日、洗礼志願式が行われました。
志願者は、10 名。
復活祭には新しい家族をお迎えします。

聖堂補修工事について

聖堂保存活用委員会　ＹＮ

2016 年から始まった、聖堂補修工事。
主であった耐震補強の大部分が完了し、外部足場もほとんどが撤去され、ステンドグラスも随時復旧されています。空調は従来の重油ボイラーを使った「暖房のみ」から、電気式のエアコンに更新され、夏には「冷房も」稼働でき、凌ぎやすくなるかと期待しています。工事全体として現在は細部の調整、仕上げ段階です。今後の予定としては・・・

・外構整備：駐車場、植栽など
・音響設備：在来再使用と更新の調整
・パイプオルガン保守点検：9 月中旬
・完成式：信徒向け＝9 月 16 日（月･祝）
　　一般公開＝10 月 5 日（土）

幟町教会の意見は尊重されながら工事が進んできたと感じています。司教座聖堂ではありますが、完成後は主なる使用者である幟町がほとんどを管理・維持して行く必要があります。

なお地下聖堂の浸水対策工事、空調工事などの追加工事があったり、外構・音響設備に関しては補助金の対象外であることなど、資金面ではまだまだ、苦しい状態です。

今回の工事が完了しても、今後も 10～15 年に一度は大改修工事が必要です。運営上の支援と共に、資金面でも皆様のご協力を引き続きお願い致します。

編集後記

足の不自由な義母と久しぶりに一緒に教会に行くことができました。寒い時期には外出も難しいので、ようやく実現しました。次は一緒にミサの時間に行けると良いのですが・・・。（な）

カトリック幟町教会

〒730-0016　広島市中区幟町 4 番 42 号
電話　082-221-0621
ファクス　082-221-8486
ホームページ　http://noboricho.catholic.hiroshima.jp

ミサの時間

日曜日　7:30、9:30、14:30～（英語）
第 1 日曜日　16:00（ポルトガル語）
第 3 日曜日　11:00（ベトナム語）
月の最後の日曜日　17:00（スペイン語）
平日　7:00　　金曜日　7:00、10:00
土曜日 7:00、18:00（主日）

主任司祭　荻 喜代治 神父
助任司祭　バート神父（淳心会）

シスター　小野島照子（援助修道会）